Japan Offical Fishing Instructer Osaka

じょふいおおさか

JOFI OSAKA

Vol. 47

令和 3年 春号

2021（令和3年）2月1日発行

発行者：大阪府釣りインストラクター連絡機構　本部：〒544-0013　大阪市生野区巽中4-19-19　tel 080-5702-1543（編集責任者：広報部 田隅）

コロナ禍での
釣りインストラクターの役割

大阪府釣りインストラクター連絡機構代表
綿井良隆

新しい年を迎えましたが、２度目の緊急事態宣言でお祝いムードも吹っ飛んでしまいました。

釣りインストラクターの講習、試験も２度目の延期となり会員の皆様にも大きな負担をかけ申し訳なく感じております。

昨年はウイルス感染の恐れから、ソーシャルディスタンスという考え方が定着し「釣り」という遊びが注目されました。

にわかに始めた多くの釣り人は、ルールやマナー、エチケットもわからず各地の釣り場で問題が起きています。

以前にもお願いしましたが、こんな状況の時こそ釣りインストラクターの価値が問われると考えています。

大人同士の穏やかな会話で正しいマナーやルールを指導できるのは、このJOFIのメンバーしかいないとも思っています。

昨年末には、大阪市内の数少ない釣り場である「カモメ大橋周辺」が立ち入り禁止になる旨の連絡が来ました。

主には駐車の問題なのですが、これもやはりルールを理解していない自分勝手な人たちが原因になっているようです。

大阪市には若干の猶予をいただき現在は経過観察中ですが、メンバーの皆さんが順次見回ってくださっていて、窓口の日本釣り振興会近畿支部に報告させていただいております。

釣りを楽しむ権利を主張する前に、その地で遊ばせていただくための義務を履行しなければ、このような事案が発生してしまうんですね。会員の皆様におかれましてはウイルス感染に最大の注意を払われ、この楽しい釣りの世界が続くよう、ご尽力をお願いいたします。

報告 1　令和２年度日本ボーイスカウト大阪連盟かわち地区釣り章考査会(R2-10/25)

コロナ禍での釣り章考査会を安全に実施するために、JOFI大阪作成の「新型コロナウイルス感染拡大防止対策ガイドライン」を基に、ボーイスカウトかわち地区責任者と数回の打合せを行いました。当初の計画では出来る限り少人数（20人以下）で実施したいと考えていましたが、大阪連盟なにわ地区が考査会の中止を決定された関連で、ボーイ隊(高校生)12名とベンチャー隊(小学校6年生から中学生)22名の計34名の受講申し込みがありました。当日5名の辞退者があり29名が受講となりましたが準備していた教室では密になるため、50名でもソーシャルデスタンスの取れる講堂に急遽受講場所を変更し座学を実施しました。

9時30分開会式で本日の講師7名が自己紹介、40分から座学、石川講師が「釣りの基本・安全確保とルールやマナー・つりの楽しさを知る」から始まり、「ルアー及びフライフィッシングの知識」は室井講師、ボースカウト独自の「釣り以外で魚を捕らえる方法」では、小川講師が前日乗合船で釣りあげたいろいろな魚を持参し、スカウトが理解しやすいよう、魚をじかに触れての講義を行いました。

田隅講師の「魚2種を捕らえて名前を覚え調理する」この授業もボースカウトとの打合せの時に依頼があり、計画された授業です。釣り独特の用語と危険な魚、持ち帰り保存方法等「釣りの豆知識」を物部講師、最後は大浦講師の「釣りの仕掛け実習」です。日ごろロープワークで使用している「八の時結び」や「電車結び」ですが、ロープに比べ釣り糸はとても細く難しそうでしたが、楽しく取り組んでいただきました。　14時からは淡輪漁港で実釣、先ず「安全な釣りが出来る」ようライフジャケットを各自着用し不備な所ところが無いかスカウト相互で確認。最後に講師が一人一人の着用状況をチェック。

竿とサビキ仕掛け、エサカゴを各スカウトに渡し、釣りができるよう、仕掛けの準備をお願いしましたが初めての人も多く、針が指に刺さったりして、なかなか上手に出来ません。少し時間がかかりましたが全員が出来たので、エサカゴへアミエビを入れ実釣となりました。　今年も、本命の「アジ」の回遊は少なく「イワシ」が実釣開始後から直ぐに掛かり始めましたが、生きた魚を手で握ることが大変そうで、針から魚を外すのにひと苦労していました。「イワシ」「フグ」「チャリコ」「アジ」等いろいろな魚が釣れ、スカウト全員が釣りを体感することが出来たので、5時15分に釣りを終了。釣り場の清掃作業を実施後閉会式となりました。　閉会式で甲斐利男スカウト委員長から挨拶とお礼の言葉があり、インストラクターからは、受講者全員が魚を釣ることが体感できたこと、みんなの協力で考査会が事故もなく終了できたこと。最後に釣れた魚の命を大切に考え、持ち帰り食べてもらうこと等をお願いし、講評とさせていただきました。　（報告：石川）

報告 2　マイクロプラスチックによる海洋汚染の現状と持続可能な開発目標（SDGs）の研修会を実施(R2-01/19)

釣り人による「釣り場環境の保全と取り組み」の一環として、令和2年度第1回の研修会を実施

国連に加盟する全ての国が2015年9月の国連サミットで採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能で、よりよい世界を目指す「平和と地球の環境を守る17の目標」（持続可能な開発目標）、その中の「目標14：海の豊かさを守ろう」に取り組む中で、私達の暮しとつながっている「大量生産/大量消費/大量廃棄」の問題や、今世界で注目され問題視されている海洋プラスチックやマイクロプラスチックがもたらす海洋汚染の現状と環境への影響、生き物への被害について、釣り人として釣り場環境の保全保護に取り組むなか、プラスチック用品における水辺の現状を再認識し、今後の活動をどのようにするのか、どのように変わるべきかを教材や動画により学習し、再認識しました。（報告　事務局　物部）

報告 3　フィッシングショー大阪2020に船釣り教室の講師として参加(R2-2/8~9)

フィッシングショー大阪2020が2月8日（土）～2月9日（日）に行われ、毎年担当させていただいている「船釣りの仕掛け釣り方教室」の講師として、今年もJOFI大阪の釣りインストラクター3名（高木、石川、山本）が、土日各2回ずつの計4回、船釣り教室を開講しました。

講師の役割は、前半30分に船釣りの歴史と船釣りの種類、竿選び・おもり負荷、針、おもり、リールの選び方等を受講者に講義。後半30分を釣り場、魚種別仕掛けのピンポイントレッスンやタイラバ仕掛けの勉強、船釣りに関してのルールやマナー、仕掛けつくりは、8の字結び・チチワやサルカン結び、枝ハリスの出し方、電車結び、ハリ結び（外掛け本結び）、PEラインとフロロの先糸を結ぶなどを行いました。できない受講者にはインストラクターが一人一人できるまで付き添い要領を伝授。

船釣り教室受講の申し込みは当日先着順で1回15名の定員ですが、毎年開場後すぐに売り切れる状態です。

今年も受講者から、時間が足りないもっと教えてほしい、楽しかったとの感想をいただき2日間4回の教室を無事終わることができました。　（報告　高木）

報告 4　第24回 JOFI大阪定時総会を開催(R2-03/22)

令和になって初めての定時総会を3月22（日）に、ヒューマンアカデミー大阪心斎橋校で開催。今年の総会は新型コロナウイルス感染対策として、受付でアルコール消毒や広い会場の使用、机一脚に会員一人が着席して実施。

開会の言葉に続き、綿井良隆副代表から來田代表の「偲ぶ会」が10月5日(土)に、各界から多数の方のご参加いただき、無事開催できたことなどの挨拶、戸波俊二と塩見孝男相談役からこれからはJOFI大阪は、若い人たちで盛り上げていってほしいとの挨拶がありました。

会員総数63名の内、当日出席者13名、委任状提出者44名計57名（90.5%）で総会・議決は開催条件を満たし、成立していることが報告され、議長に物部胤三事務局長を選出し、議事に入りました。第一号議案から第四号議案についての報告があり、議案はすべて満場一致で了承されました。決議を求める事項、第一号から第五号議案は全員の拍手で決議。出席者全員で記念写真を撮り総会は無事閉会しました。（報告　事務局）

報告 5　大阪湾クリーン作戦　清掃作業に参加しました(R2-06/07)

新型コロナウイルスの猛威が過ぎ去った、6月7日(日)晴天の中実施された清掃作業に85名の参加者があり，JOFI大阪から、かもめ大橋会場へ３名の会員が参加しました。私達は、会場付近の道路で歩道の清掃作業を行いましたが、釣り人によるゴミは少し見られる程度。カモメ大橋の釣り場入口の一部には放置された大量のゴミがあり、

内容物を見ると大部分は釣り人が放置したゴミと考えられました。処理するにつれ悪臭が漂い始めたので、収集車を横付けし直接処分しましたが多くの時間がかかりました。（報告　事務局　物部）

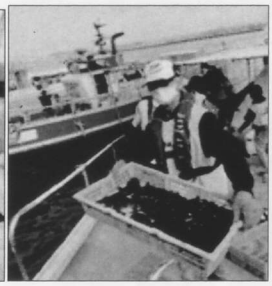
報告 6　魚拓作成技法研修会(第２回JOFI大阪研修会)(R2-07/12)

会員11名が参加し、魚拓作成技法の研修会をヒューマンアカデミーフィッシングカレッジ心斎橋校で実施。
当初5月10日(日)を予定したいたのですが、新型コロナウイルス感染拡大に対処するため2カ月延期の開催となりました。
講師は、釣具店「伊勢吉」の安達雅史様にお願いし、魚拓用紙も新たに購入。
講師の安達様は、日ごろ釣具店に持ち込まれる色々な魚種の魚拓を作成されています。その技法技術をご教授いただき、私達が実施している魚拓教室をより充実させるため、研修会の講師を願いしました。
また、当日魚拓を撮る「ガシラ」と「メバル」は、講師自ら日本海へ釣行し、持参していただいたものを使用させていただきました。

教授いただいたことを今後活用し、より多くの魚拓作成依頼者に満足いただけるよう、今後も技術向上を重ねていきたいと思います。
伊勢吉釣具店安達雅史様有難うございました。（報告　辻）

報告 7　大阪湾稚魚放流事業に参加(R2-09/24)

第39回目を迎える大阪湾への稚魚放流事業が、日本釣振興会大阪府支部主催で9月24日(木)に開催され、JOFI大阪からインストラクター3名が参加協力しました。
日本釣振興会大阪府支部は「チヌの海ふたたび」を合言葉に、1983年8月全国にさきがけて稚魚放流を開始。チヌの稚魚放流をシンボルに海の自然復活を願いながら、釣り場環境の保全、釣りの普及、釣り知識やマナーの向上等の事業に取り組んでいます。
この運動は皆様の共感を呼び全国各地への拡がりを見せ、今では沿岸各地の釣り場で沢山のチヌが釣れるようになりました。
今年度の稚魚放流は当初8月20日(木)に予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催延期となり9月24日(木)に実施日が変更となりました。
当初は全ての魚種の一斉放流を予定していましたが、チヌの放流は㈱アーマリン近大から提供を受け8月20日(木)に実施。



今回はキジハタを（公財）大阪府漁業振興基金 栽培事業場から、また、ガシラは瀬戸活魚センターから稚魚の提供を受けて実施。
運び込まれた稚魚は「ガシラ」18,000尾「キジハタ」4,300尾で、参加ボランティアがバケツリレー等で大阪釣船業協同組合の協力船に運び込みました。開催日が変更となり恒例のボーイスカウトによる放流風景も見ることが出来なく残念です。
今年の稚魚は大きく「キジハタ」は20㌢前後、放流すると元気に泳いで直ぐに見えなくなりました。常吉大橋付近で一部を放流し写真撮影後それぞれの港に帰り近くの港で放流するとのことでした。稚魚放流後、夢舞常吉大橋の清掃作業を実施、清掃作業車へゴミ積み込みを手伝た後、解散。　（報告　山本）

報告 8　北摂豊中支部のボーイスカウトが南港魚釣り園護岸へ(R2-10/04)

南港魚釣り園管理責任者から、北摂豊中支部ボーイスカウトが來園されるので初心向けの教室を開催してほしいとの依頼がありました。
当日、小学3年生から5年生の19名と指導員9名の計28名が來園され、釣り園入り口付近でインストラクター5名が出迎え“安全な釣りのマナーとルール”について教材「すきすきフィッシング」により説明。10時から釣りを開始しましたが、当日は早朝にツバスとイワシが少し釣れた程度で、以降魚が釣れている様子はなくスカウト達が一生懸命エサを詰めて、釣るのですがアタリすらなく時間が過ぎて行きました。

その後も釣れる雰囲気が無く、12時を迎えてしまいましたがスカウト責任者から30分延長するとのことを伝えると喜びの声が上がりましたが、結果一匹も釣れないまま終了しました。
（報告　中島）

報告 9　岬町の秋を楽しむ親子ふれあい釣り教室(R2-11/15.22)

令和2年11月15日と22日の日曜日、両日とも晴天に恵まれ、岬町親子ふれあい釣り教室が㈱ライフサポート関西主催、岬町観光協会や釣り場所提供の大阪府立青少年海洋センター、日本釣振興会と私達インストラクターの協力で開催されました。
今回の開催は、両日共に新型コロナウイルス感染防止対策を主催者側と事前に検討し、右記項目を確実に実施することで開催としました

- 釣り教室を2回に分けて開催
- 「JOFI大阪のコロナ感染拡大ガイドライン防止対策「を主催者と事前検討し実施
- ㈱ライフサーポート関西作成の「健康チェックシート」による出発時健康確認の自己申請
- 受付時に検温及びマスク着用の徹底

※※※※※　15日の開催模様　※※※※※
》》大喜びイワシの入れ食いを満喫《《

早朝の気温は9.4℃と少し寒い日でしたが、個人やファミリーの参加者17名、主催者役員3名、インストラクター10名。市民サポーター1名の応援もあり、総参加者数31名で開会。

主催者からの挨拶後、インストラクターから「ライフジャケットは自分の命を守るもので必ず着用すること、危険な魚(オコゼ、ゴンズイ、ガシラ等)が釣れた時の扱い方についてレクチャーし、釣り場であるヨットハーバー桟橋へ。

インストラクターが釣り竿、バケツやエサのアミエビを持ち参加者2～3名を誘導。釣り始めて直ぐに魚が入れ食い状態に、魚種は、マイワシやウルメイワシの12～22㌢、マサバの25㌢、ヒイラギ6㌢等、一人で50匹以上釣り上げた親や子供も、釣果は満足のいく釣り教室となりました。このほか、インストラクターが魚拓作成を支援、先着10名、釣りあげた魚を魚拓に。

今回、初めて釣りをした参加者も多く、こんなに釣りが楽しいとは思わなかった。また、このような催しがあれば来たいとの話をいただき、楽しく無事故で釣り教室を終わることがが出来ました。(報告　山本)

※※※※※　22日の開催模様　※※※※※
》》サバとのやりとりを体感《《

七田チャイルドアカデミースクールなんば校の生徒や父兄47名（子供達26名、大人21名）の皆さんが参加され、主催役員5名、インストラクター9名と一般支援者2名、総参加者数65名。開会式を９時から行い、司会の吉本博一氏(ライフサポート関西)岬町観光協会南條磯巳氏が「素晴らしい泉南の海で自然を楽しんでください」と挨拶がありました。
参加団体から、釣りの基本と自然について勉強したいとの話があり「環境省自然公園指導員」で「大阪府自然環境保全指導員」の田中正視氏に来ていただき「魚・海・山のかかわり等について」、石川哲男インストラクターからはハオコゼやゴンズイとフグなど「危険な魚」について正しい対処の仕方等の講義を行いました。

その後、釣り場であるヨットハーバ桟橋へ、参加者２家族(６名)をインストラクターが先導し、それぞれの参加者が、竿とリール、アミエビバケツ、等や持参したクーラーを持って釣り座に到着。インストラクターの指導のもと釣りを開始しました。
15日に開催した釣り教室では、一家族100匹以上の釣果がありましたが、今日は最初入れ食い状態が続いていましたが、時間がたつにつれ魚の群れが見えなくなり、忘れたころに釣れる状態になってしまいました、釣果は一人10匹程度で、魚種はウルメイワシ、マイワシ(15～23㌢)とマサバ(25㌢)、アジ(25㌢)。前回好評であった、釣れた魚で魚拓の作成。今回も一家族一匹先着10名とし募集しました、非常に好評で子供の記念になると大変喜ばれました。12時になったので閉会式、岬町観光協会南條磯巳氏から「良い天気で良かった。」田中正視環境省自然公園指導員からは「海と山があるこの岬町にまた来てください。」参加者からは「初めて釣りをして、生きた魚を手で触った。また、食べることが出来たので楽しかった。来年も岬町に来たい。」との言葉がありました。
(報告　髙木)

JOFI大阪
釣り文化ラジオ
INTERNET RADIO
http://jofi-osaka.com